

SUN たなもと。

目の前に出来ることがある
だからやる
それが生きる幸せ



フラワータウン市民文化祭実行委員会 委員長

油井 敏之さん

Toshiyuki Yui 狭間が丘



ラジオ・ハニー FM でもっと詳しく聴けます! 【2/21 15時10分〜】

「まつりの灯を絶やしてはいけない」穏やかな笑顔の中に熱い思いをのぞかせるのは油井敏之さん。22年続いた「フラワータウン市民センターまつり」だったが、平成30年、開催の主体が市から地域に移行することが決まり、岐路に立たされた。資金面や運営体制などの課題は多く、皆不安だったが、存続を望む多くの声に背中を押された。「それなら自分たちでつくる文化祭をやろう」有志が集まり「フラワータウン市民文化祭」として一から企画を見直した。各方面との調整や広報などの事前準備から当日の警備や音響の操作など、初めてのことばかりだったが、運営の全てを自分たちが担った。苦労の連続だったが、皆が知恵と力を出し合い、乗り越えた末に迎えた第1回の市民文化祭は、来場者千人を越す大盛況。仲間との連帯感や達成感に包まれ、喜びも一入だった。コロナ禍でも悩み考え、「少しでもできることを」と諦めることなく、できる範囲で毎年開催。縮小せざるを得なかったが、発表の場を失った地域内の学校の人権標語ポスター展を行うなど、地域貢献のための工夫は忘れなかった。そこには変わらない思いがある。「フラワータウンのみんなが一つの仲間になってもらいたい」

今では文化祭開催の中心にいる油井さんだが、実は移住してきたのは15年前で、地区の中では「新参者」だ。精力的にまちづくりに関わり始めたのは老人クラブに誘われたことがきっかけだった。退職して三田に移住するまでは、営業マンとして全国を飛び回る仕事一筋の人生。「今は地域一筋に第2の人生を満喫している。毎日やんなきゃいけないことがあるのは幸せなこと」と語る油井さん。実行委員会以外にも地域でいくつかの役を兼任し、1日に複数掛け持ちすることも少なくない。原動力は、「ただ、人の役に立てたらいいな」と思う気持ち。地域貢献のカタチは人の数だけあるはず、「フラワータウンは本当に良いまち。文化祭を通じて、長く住んでいる人も新しく来た人も、子どもから高齢者まで、みんなが一つになって活力あるまちになってほしい」と語る笑顔は、愛情に裏打ちされた強さがあった。



文化祭実行委員会
会と共に活動する
笹倉 恭子さん

悩んだら真っ先に油井さんに相談。いつもにこやかに、こちらの話をまず聞いて気持ちを受け止めてからご自身の考えを話してくれます。みんなが安心して、納得して同じ目標に向かって活動できています。